

令和5年度 学校評価書(共通) 前期

校名 宇和島市立岩松小学校

1 自己評価書

教育目標	ふるさとを愛し、共に学び、未来を拓く、岩松の子どもを育てる				
基本方針	学校創立以来、150年間で築かれた岩松小教育の歴史と伝統を継承・発展させるとともに、持続可能な未来を拓く岩松っ子を育成するため、学校運営協議会との連携を図り、「誠意・熱意・創意」を合言葉にして、学校・地域・保護者が一体となった「子ども・教職員・保護者・地域」の4つの輝く愛顔があふれる学校づくりを目指す。				
本年度重点目標	1 確かな学力を育てる教育の推進 2 安全・安心で充実した教育環境の整備 3 豊かな心、健やかな体を育てる教育の推進 4 特別支援教育の充実				
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用 自校のねらいに沿って、各調査を分析し、成果と課題を把握し、具体的な対策を講じた。	・分析資料の作成	A	A
			・具体的な対策の実施	A	
	②	授業改善 主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。 ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。 一人1台端末(iPad)及びEILS(えひめICT学習支援システム)を積極的に活用し、個に応じた新しい学びのあり方の推進に努めた。	・教師アンケート	A	A
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	③	家庭学習の充実 家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	④	読書活動の充実 読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
・児童生徒アンケート			B		
⑤	ふるさと学習及びESDの推進 社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート	B	B	
		・保護者アンケート	B		
		・児童生徒アンケート	A		
(成果と課題) ○学校の図書カードとみきゃん通帳を使って、読書記録を残した。 ○朝読書や読み聞かせ、図書室利用の呼び掛けを行い、読書への意識を高める手立てを講じたが、家庭で読書をする習慣は定着していない。 (改善策等) ○家庭学習と読書をする習慣を確立させるために、保護者と連携して児童に働き掛ける必要がある。					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
生徒指導の充実	①	規範意識の向上 規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
	②	児童生徒の健全育成 児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。 不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。 いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート	B	B
			・保護者アンケート	B	
			・児童生徒アンケート	A	
			・教師アンケート	A	A
			・児童生徒アンケート	A	
			・保護者アンケート	B	
	③	基本的生活習慣の徹底 基本的な生活習慣の確立に向けて、家庭との連携・協力の下、学校全体で組織的に取り組んだ。	・教師アンケート	B	A
・児童生徒アンケート			A		
・保護者アンケート			A		
④	自己肯定感等 自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。 自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート	B	B	
		・児童アンケート	A		
		・教師アンケート	B		
(成果と課題) ○校内で協力しながら未然防止と早期対応に努めているが、家庭に伝わっていない部分がある。 ○本人の得意なところを伝え、自信を持って取り組めるように促した。(委員会の放送や図画工作科の作品作り) ○いじめの未然防止で学級担任の知らないところで、事が進んでいることがあった。何かあれば連絡・相談してもらい、どのように進めるかを話し合った上で進めてほしい。 (改善策等) ○家庭状況を把握し、協力の仕方を検討する。 ○校内体制を見直し、生徒指導主事を中心に学校全体として共通理解を図れるようにする。					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス 仕事のやりがい重視しつつ、時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指して、 <u>教職員の意識改革</u> に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	A A	A
	②	働きやすい環境づくり 新型コロナウイルス感染症5類感染症への移行後の業務改善に向けて、教育活動の回復や精選に慣例にとられないことなく取り組んだ。	・教師アンケート	A	A
		休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	A	A
③	他の教職員のサポート体制の充実 「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A	
<p>(成果と課題) ○放課後水泳練習は、体育の授業から放課後練習に移る形を取ることは、働き方を考えるとよいと思う。しかし、体育の授業の時間は、体育の授業として、始まり、終わりの挨拶をきちんと行い、基礎的な練習や4泳法に取り組みさせる等、全体で行う指導が必要であると感じた。(1部練習期間だけでも)</p> <p>(改善策等) ○授業の流れから放課後練習への移行はスムーズで、その点は継続していく。ただし、授業の内容が水泳記録会への練習に偏らないように、履修内容をバランスよく取り入れる。</p>					
評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化 全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
		学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	
		②	情報発信 家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	
③	来校・相談体制 保護者や地域の方々が来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・地域アンケート	A A A	A	
<p>(成果と課題) ○保護者にしても、地域の方々(CS協力員)にしても大変協力的で、学校や子供のためにいろいろと尽くしてくれる。それが教師も子供も見て感じ取ることができている。 ○地域学校協働活動推進員に要望し、授業にも地域の人材を生かすことができた。 ○学校がしてもらうことばかりなので、何か地域に返せることがないか。</p> <p>(改善策等) ○学校運営協議会等を通じて、学校側が地域に向くことを考えていく。</p>					

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満